

AAALA ニュース 第 148 号

内容紹介

01 ガザ人道停戦を・BRICS 拡大首脳会合の議長サマリー

BRICS の 5 カ国と来年から新加盟する 6 カ国がガザ問題解決をめざす外交活動を活発化させている。外相（ガザ・コンタクト・グループ）が中国とロシアを訪問。11 月 21 日には緊急の首脳会合（オンライン）が開かれた。議長国南アの発表文。

02 P. エスコバル「ガザ事態・嵐の前の静けさ」

米国とその同盟国は、イスラエルによるガザ攻撃を、一時停止後も支援し続けるだろう。しかし「ジェノサイド」が明白になるにつれ、世界に形成されたグローバルサウスなど「新たな多数派」との対決に直面するだろう。

03 ナンマイケーカーカイン「ミャンマーを忘れない」

ミャンマーのシャン州出身、京都精華大学国際文化学部特任准教授の筆者が、千葉 AALA でおこなった講演記録。歴史的経過をふりかえりながら「今わたしたちにできることは」と支援の行動をよびかけている。

04 コロナ禍のウガンダと「生理の貧困」問題

ウガンダ支援と交流にとりくむ NPO 法人からの報告。支援活動（コーヒー販売）に協力している千葉 AALA の機関紙から転載します。

05 C・ヘッジ「人道的帝国主義がリビアの悪夢を生み出した」

2011 年の NATO 軍によるリビア軍事介入とカダフィ政権打倒が何を生み出したか。米独立系メディアでアメリカ外交を鋭く告発しているジャーナリストが振り返って、背景を暴きだしている。